

# 錦江に生きる

にじゅうにん目

小鷹 敬志郎さん  
（麓住宅自治会）



▲子牛に耳標を装着する敬志郎さん

▼合間に牛の状態を確認する



このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。  
第20回目は、麓住宅自治会の小鷹敬志郎さんです。

丑年生まれの年男、畜産の町・錦江町で牛に携わる人物を捜し求めた。「灯台下暗し」近くにあった。田代地区の畜産担当職員、小鷹敬志郎さんがその人だ。

敬志郎さんは、平成6年4月に曾於地区にある農協から旧田代町役場に入庁した。畜産の技術者が3年もの間不在だった為、県内に名を轟かせていた敬志郎さんに白羽の矢が当たったらしい。（元畜産担当者談）敬志郎さん曰く、JAの仕事が軌道に乗り充実していた頃、田代から話がきた。現場主義の自分には行政の仕事は合わないと言っていた。だが、田代では牛だけを担当してこればいい。牛しかいないから！の一言に田代行きを決意したらしい。実際、田代に来たところで「尋ねると」「養豚・養鶏が多かった。完全に騙された」と自嘲気味に笑った。だが、さすが気持ちの切り替えてここで頑張ろうと決めたらしい。

当時の田代の現状は、正直あまり芳しくなかったという。敬志郎さんは、まず素牛の更新に取り組んだ。これは商品性の高い子牛を作るのに必要なことで、共進会対策にも繋がるという。さらに毎月巡回指導も始め、田代の畜産を根底から変えるくらいの強い意志で取り組んだという。結果、今では県の共進会でブランドチャンピオンを獲得したり、全国共進会で一席を獲得する牛が出るなど、成果が出てきたと敬志郎さんは目を細めた。敬志郎さんと呼んで田代は正解でしたね。と言つと、「違つよ、時には怒鳴ったり、しんどい事をさせたりする自分を信じて頑張ってくれた畜産農家の人たちが自分たちで努力した成果だよ。」と感慨深げにさらに目を細めた。続けて、「でもまだまだなんだ。これからは錦江町全体でもっとと上を目指して頑張っていかなければならぬ。」と拳を握った。

休日は何していますか。と問うと、「おお田代はとん年と付き合っているよ。」とぶ然のように話した。畜産担当として田代の牛も見ながら、息子として東郷町の実家で畜産をしている母親の手伝いにも行っている。「でも、年数回、家族みんなで行く野球観戦がリフレッシュかな。」と、この時だけ父親の顔に戻った。

猪突猛進ならぬ、牛突一進！  
年男・小鷹敬志郎が丑年に賭ける！

向上に取り組んで頂きたい。その為にも、今年は母牛の淘汰、更新のチャンスOfYearでもありません。積極的に子牛や妊娠牛を導入し、また、優良産子の保留を行って、商品性向上の基礎となる繁殖基盤の確立につなげて行きたいと思います。牛を飼う上での基本は言うまでもなく粗飼料です。まず、「飼育頭数に見合った粗飼料が確保されていますか？」「母牛の栄養状態はどうですか？」「分娩産子は小さくありませんか？」商品性につながる要因の一つとなっていると思われまふ。我が経営をもう一度振り返って見てください。そこから、問題解決につながるのではないのでしょうか。また、畜産共進会も春、秋二回開催し、育成技術の向上を図りたい。そして、県共進会出場を閉ざすこ

とのないよう「錦江牛」銘柄確立に努めたいと思います。そして、平成二十四年に開催される第十回長崎全共に出場を目標として繁殖基盤造りを進めて行きたいと思ひます。最後に錦江町は畜産の町、農業の町です。現在、田代地区において鶏糞炭化施設が稼働中でありまふ。ご存知の方も多いかと思ひますが「土根丈炭」という銘柄で主に土壌改良材として、農作物（水稻・甘藷・野菜・茶・ブドウ等）をはじめ、バーク堆肥など幅広く利用されるようになりました。今後は、耕畜連携を取りながら、環境にやさしい錦江町の有機農業を発信するいい機会であると思ひます。

